

最上の子どもたちのために

# 未来へ紡ぐ

- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和6年10月 1日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第 5 号

## 第2回特別支援教育研修会

令和6年8月29日(木)

第2回目の特別支援教育研修会は、通常学級における支援・集団づくりをテーマに開催しました。講師に宮城学院女子大学 梅田真理 教授をお迎えし、「発達障がいのある子どもの理解と支援」と題して御講演いただきました。

### 講演より

- ・「発達障がいだから・・・」「大変だ」で止まってしまうことが多い。  
学校全体で「一緒に考える」という姿勢が大切!
- ・診断名にこだわらず、一人ひとりの状態をよく「見る」(観察する)ことが重要。
- ・「やった!できた!」を大切に。認める、ほめる、居場所をつくる。
- ・先生の対応には他の子どもも注目している。大人はみんなの鏡。



### ～参加された先生方の声～

- ・子どもの将来を念頭に置いて指導していくことの重要性を再認識しました。
- ・今まで関わってきた子どもとの関わり方をもう一度考え直すきっかけとなりました。また、新たな気持ちで子どもと向き合っていこうと思います。

## 教職5年経験者研修

令和6年9月3日(火)

5年経験者研修は、「望ましい人間関係づくり」を視点に「特別活動」に関する研修を行っています。昨年度に引き続き会津大学文化研究センターの苅間澤勇人教授をお招きして、「よりよい合意形成ができる力を育む学級活動」をテーマに御講義いただきました。話し合い活動における合意形成、QUの活用法や構成的グループエンカウンターなど、参加された先生方にとって、明日からの実践に活用できる多くのヒントを得ることができた貴重な時間となりました。

鬼海 悠一 教諭 (日新中)  
「QUを活用したより良い学級づくり」



### 講演より

- ・グループには教育力がある
- ・人々と心を通わせる体験は人を癒し、人を育む。
- ・他者との関わりで新たな気づき得ることができる。
- ・フィードバックが自分を映す鏡になる。
- ・行動レポーターが増える。等



### ～参加された先生方の声～

・構成的グループエンカウンターを実際に体験し、仲間の良いところに向けて目をつけることや、自分のパーソナルの部分を開示することを大切にして、学級で活用していこうと思いました。



### 演習の様子



# いじめ不登校未然防止協議会 令和6年9月10日(火)

最上管内の各小・中学校等、新庄養護学校、各市町村教育委員会から約50名の方々に参加いただき、「不登校の児童生徒に対する支援」について、県教育センター教育相談課 岩井暁子指導主事 から講話をいただきました。参加者の先生方には、**組織的支援**の現状把握を行っていただきメリットとデメリットを明確にしました。また、演習ではグループごとに事例検討を行いました。課題予防的生徒指導にあたる支援段階を考え、「誰とどんな会をもつのか」「対象の児童生徒と誰がどんな関わりができそうか」考え、明日からの支援のヒントを得ることができました。

## 組織的支援を進めるために・・・

講演より

- ①一人で抱え込まない
- ②どんなことでも問題を全体に投げかける
- ③管理職を中心にミドルリーダーが機能するネットワークをつくる
- ④同僚間での継続的な振り返りを大切にする



研修の中で、県教育センターで作成した「不登校児童生徒支援校内研修動画」が紹介されました。  
**動画視聴** 動画は2本とも、Youtube 山形県教育センター公式チャンネルに限定公開でアップロードされています。活用希望の場合は、下記 URL か右記 QR コードを読み取っていただき Googleform を開きお申込み下さい。

URL:<https://forms.gle/7Zz9CKGeoXA2N1kU9>

○動画タイトル ①「学校にいけない!？」25分 ②「脱!抱え込み!」24分



# 第2回 初任者研修授業研究会 令和6年9月12日(木)



西田 美優 教諭 (新庄小)  
国語「ごんぎつね」

高木 芽生 教諭 (日新中)  
国語「盆土産」



紀伊 海秀 教諭 (戸沢学園)  
保健体育「ソフトボール」



小・中学校等・特別支援学校の初任者27名が新庄小学校、日新中学校、戸沢学園の3会場、4部会に分かれて授業研究会を行いました。事後研では、「“自分事”となる課題設定の工夫」の視点のもとに、日頃の自分の授業に重ね合わせ、代案を述べるなど活発な協議が行われました。授業者の表情の良さにも特筆すべきところがありました。

## 協議の様子



## ★振り返りアンケートより★

子どもたちに何をどのように学んでもらいたいかを考え、実践できました。協議で子どもたちの良い姿を取り上げてもらい、今後さらに学んでいこうと思いました。(授業者)

授業を通して、自分の学び方を自分で決められる子どもになってほしいと感じました。そのために、よく教材を研究し、単元の流れを見通して計画していかなければならないと感じました。(参観者)

## 授業の様子



奥山 唯人 教諭 (戸沢学園)  
算数「偶数と奇数」